

2018/08/05

「永遠の契約」

神と私たちの間には、永遠の契約があり、神は、その契約にのっとってすべてのことを行なわれます。この世界では、契約の際、契約書を交わしますが、それは、思い違いや勘違いを避けるためです。

実は、この世界は神に対して、大きな思い違いをしています。というのも、私たちは幼い頃から、良いことをしたらほめられ、悪いことをしたら罰を受けるのが当たり前の世界で教育を受けてきたからです。すると、どうしても神を見る時も同じメガネで見てしまうため、悪いことをしたら罰が与えられ、良いことをしたらほうびを受け取ることができると、自然に思い込んでいます。

しかし、これは神の本意ではありません。神は、契約を立てて神の考えを明らかにしておられます。この契約を知っていれば、神がどのように対応されるのか、最初から理解することができます。

■ノアとの契約

「わたしはあなたがたと契約を立てる。すべて肉なるものは、もはや大洪水の水では断ち切られない。もはや大洪水が地を滅ぼすようなことはない。」さらに神は仰せられた。「わたしとあなたがた、およびあなたがたといっしょにいるすべての生き物との間に、わたしが代々永遠にわたって結ぶ契約のしるしは、これである。わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。」(創世記 9:11-13)

神が、人との間に最初に立てた契約は、「神は滅ぼすことはしない」というものです。ノアの洪水で、神は信じない人々を滅ぼされましたが、そのようなことはもうないと、はっきり宣言しておられます。その契約のしるしである虹を見ることで、私たちは永遠の契約を確認することができます。

人は神によって造られ、神と共に生活していましたが、悪魔によってだまされ、神との結びつきを失いました。罪を犯したことで、神との関係は壊れてしまったのです。こうして人の中に死が入り込みました。死とは、神との結びつきを失うことです。その結果、人は神の愛が見えなくなって不安になり、人の体は朽ちるものとなりました。この状態を聖書は「死んでいる」と言っています。神との結びつきがないので、このままだと滅んでしまうということです。

神が見えず、神に愛されている自分が見えず、いつか自分も朽ち果てるという世界で、人は不安を覚え、安心を求めるようになりました。見える富を求め、人の愛を求めて、人は争うようになったのです。「少しでも安心して長く生きたい」「少しでも人から愛されたい」、こ

れが今日の私たちの罪の原動力になっています。

罪はすべて不安から生じています。カインとアベルは、どちらが愛されるか競争し、敗れたカインはアベルを殺してしまいました。この後も罪は広がり、人類が増えていく中で、神を信じるのはノアの家族8人だけになってしまいました。

キリスト今日の歴史を見ればわかりますが、神を信じる者は迫害されます。ノアの家族には、命の危険がありました。そこで、神はノアの家族を助け出すために箱舟を作らせて、洪水を起こしたのです。

ここで重要な点は、神は滅ぼそうとしたのではなく、助け出そうとしたということです。多くの人が、ノアの箱舟の話を、神が罪に対して罰を与えたものと考えて、神は恐ろしい方だと思っているのですが、実はそうではないのです。

新約聖書に、神はノアの時代の人々に福音を語って助けようとしたが、彼らは拒んだと記されています。そもそも人は生きていようでも死んでいるので、神が助けようと差し伸べた救いの御手を拒んだ彼らは、そのままになったというのが真実です。神は誰も滅ぼしてはいないのです。

神は、後の時代の人々が誤解することのないように、ノアに対して「誰も滅ぼさない」という契約を立てられたのです。これが永遠の契約の土台です。永遠の契約は永遠ですから、もちろん今も有効です。

■アブラハムとの契約

「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」(創世記 17:7-8)

続いて神は、アブラハムを通して、永遠の契約の柱を立てます。

一つ目の柱は、神との結びつきを失って死んでいたあなたを救い、神との関係を回復するという「救いの恵み」です。「今、滅んでいるあなたを私が救うから、再び私はあなたの神となる。」と、神は言っておられます。

もう一つは、「カナンの地を永遠の所有として与える。」と言われていることです。カナンの地は実際にあった場所ですが、さらに霊的な意味があり、新約聖書のヘブル書の中では、「安息の地」と呼ばれています。つまり、安心が与えられるというものです。

私たちは皆、神との結びつきを失って、不安の中に生き、見えるものにしがみつくと罪に走って、さらに苦しんでいます。この不安を取り除く手段は、罪を無条件で赦すことです。罪は死がもたらしたものであり、悪魔のしわざによるものであるから、あなたがどんな罪を犯していようとも、神はその罪を責めず、無条件で赦すと言われます。この罪の赦しを

受けることで、私たちは平安を手にすることができます。ですから、平安が得られるこの恵みを、「赦しの恵み」と言います。

こうして神は、永遠の契約として、「滅ぼさない」という土台の上に、「救いの恵み」と「赦しの恵み」という二本の柱を立てました。

そして神は、この永遠の契約を忘れることがないように、割礼という儀式を行うよう命じました。割礼は、恵みを受ける条件ではなく、神が永遠の契約を立てたことを忘れることがないようにというしるしなのです。

「あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。」（創世記 17:11）

ノアに立てた契約のしるしは虹でした。そして、アブラハムに立てた契約のしるしは、自分の体に印し、いつも見ていなさいと教えているわけです。

■神が契約を立てるとは

ここで重要なポイントは、神が立てた契約は、アブラハムに対してもノアに対しても「永遠の契約として立てる」という表現をされているということです。それは、人には一切条件を求めない、自らに課した契約だということです。

この世の契約は、お互いに条件を交わします。しかし、神は、あなたを滅ぼさないための条件も、救われるための条件も、安息を得るための条件も、一切求めません。その理由は、人はつきつけられた条件を実行できないからです。神が義や善を示されても、それを実行することのできる義人は一人もいないと聖書は語ります。ですから、ただあなたは私が示す契約を受け入れればよいと主は言われるのです。

そして、神はこの後、永遠の契約をさらに肉付けしていかれます。

■律法の契約

ところで、神が与えた契約には、「永遠の契約」の他に「律法の契約」というものも存在します。神がモーセと結んだ律法の契約は十戒と呼ばれ、その後、それをさらに詳しくした律法の契約が、ヨシュア、エズラ等と結ばれています。

これは、神が規定した条件を人に求め、この律法を実行すれば私たちを祝福するというもので、永遠の契約とは別の契約です。

神は私たちを救って安息に導いてくださいますが、神は人に自由な意思を与えたので、人の意思を尊重し、同意なしにはことを行なうことはなさいません。ノアの洪水の時も、神はノアを通して人々に呼びかけましたが、人々がそれを拒否したために、救うことができませんでした。そこで、神が私たちを平安に導くために考えたのが、律法の契約です。

普段から頑張れば褒められるという世界で生きている私たちは、この律法に飛びつきました。ところが、この律法には仕掛けがありました。それは、誰もこれを実行することはできないという仕掛けです。神の律法は、それほど厳しい内容なのです。パウロは、誰よりも律法に熱心な人間でしたが、そのパウロが、律法を行なうことによっては罪の意識しか生じなかったと告白しています。神が律法を与えた目的は、私たちが罪に気づき、神に助けを求めることにあったのだと、パウロは神から啓示を受けて教えられました。これが、律法の契約のからくりです。

人はどうにもならない自分の罪に気づくとつらくなり、神に助けを求めざるを得なくなります。こうして人が神に助けを乞う時、神は約束を守り、私たちが救って平安に導いてくださるのです。ですから、新約聖書では、律法は私たちがキリストに導く養育係の役割をしたのだと教えられています。

こうして神は、永遠の契約の土台と骨組みができた後に、律法の契約を結び、永遠の契約を実行なさろうとしたのです。

■ダビデの契約～エレミヤの契約

神はさらに、永遠の契約は、神が救い、神が平安に導き、すべてを神が行うものであることを、ダビデに明文化させます。ところが、ここで問題が生じます。人々は、律法の契約を誤って使うようになり、律法を実行できたことを自分の義を証しする道具として用い、律法を通して他者を裁くようになったのです。こうして、律法を誤った使い方をするによって、心は神から離れていき、イスラエルという国家は分裂し、やがて完全に滅びることとなります。

この時、滅びゆくイスラエルで最後活躍した預言者がエレミヤです。そして、神はエレミヤに対して、永遠の契約と律法の契約とを合わせた新しい契約を立てると言われました。

「見よ。その日が来る。——主の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——主の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのようにして、人々はもはや、『主を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——主の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

(エレミヤ 31:31-34)

人間が、どんなに律法を間違っても、神が私たちの心に律法を書き込んで罪に気づくようにすると神は言われます。私たちが律法で罪に気づくことをしないなら、神は私た

ちの良心を利用して導いてくださると言うのです。こうして神は律法の契約と永遠の契約を合体させました。

私たちがどんなに律法を無視しようとも、神が罪に気づかせ、神ご自身が導いてくださるのです。救いは神からのものであり、人の働きではありません。神が私たちに働いて、救いに導いてくださるのです。

神がこの時、「赦しの恵み」を明文化して新しい契約として立てたのには理由があります。バビロニアに征服されて滅亡寸前のイスラエルの人々は、自分達が神に従わずに罪を犯した罰だと思っていたに違いありません。

神は、「私はあなたの罪を二度と思い起こさない」と赦すことで、当時のイスラエルの民を励ましておられるのです。このように、神は、永遠の契約を明文化し、神の思いを伝えておられます。

■エゼキエル～イザヤ

イザヤはエレミヤ以前の預言者ですが、イザヤ書 40～55 章は、エレミヤ以降にイザヤの弟子が書いたもので、第 2 イザヤと呼ばれています。ここでエレミヤに語られた契約が、さらに詳しく説明されています。

「わたし、主は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握り、あなたを見守り、あなたを民の契約とし、国々の光とする。」（イザヤ 42:6）

「主はこう仰せられる。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。わたしはあなたを見守り、あなたを民の契約とし、国を興し、荒れ果てたゆずりの地を継がせよう。」（イザヤ 49:8）

ここで神は、「あなた」と呼ぶ救い主キリストが来られることを語っておられます。キリストを通して、永遠の契約は実行に移され、神との関係を回復する救いの恵みがもたらされて、私たちが平安に導くと、神は語っておられるのです。この預言以降、人々はキリストを待ち望むようになりました。その契約に従って来られたのが、イエス様です。

「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」（イザヤ 53:5）

「このことは、わたしにとっては、ノアの日のようだ。わたしは、ノアの洪水をもう地上に送らないと誓ったが、そのように、あなたを怒らず、あなたを責めないわたしは誓う。たとい山々が移り、丘が動いても、わたしの変わらぬ愛はあなたから移らず、わたしの平和の契約は動かない」とあなたをあわれむ主は仰せられる。」（イザヤ 54:9-10）

「耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたととこしえの契約、ダビデへの変わらない愛の契約を結ぶ。」(イザヤ 55:3)

救い主は私たちの罪を背負って十字架にかかり、それによって私たちに平安がもたらされます。人は、自分の罪が裁かれるのではないかと恐れますが、神はあわれむ神であり、決してさばくことはなさいません。これは、神がこれまで述べてきたことであり、イエス・キリストは、その契約にのっとして行動なさるのです。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネ 3:17)

イエス・キリストは、十字架にかかって死を滅ぼし、永遠の契約を実行に移し、私たちを救い、平安に導き、罪を赦すという恵みを実際に見せて、提供してくださいました。これを信じて受け取れば、人は救われ、赦されるのです。

■永遠の契約の血

「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」(ヘブル 13:20-21)

イエス・キリストの十字架の血が、永遠の契約の証となり、こうして、旧約聖書と新約聖書は、永遠の契約によって一冊の聖書になったのです。

神は、決して私たちを罰することはしません。ただ救うだけです。わざわざ、罰ではなく、むしろ神様があなたを助けてくださる栄光の時ですから、安心して神により頼んでいきましょう。神様にあるのは、ただ私たちに平安をもたらす計画だけです。この永遠の契約が文章化されたものが聖書であり、ここに神の思いがつづられているのです。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」(エレミヤ 29:11)

これが、神が私たちに与えたいものです。罪や罰や恐れを勝手に想像して、神に対して抱くのは間違いです。神は、永遠に変わらない契約にのっとして動き、すべてはイエス様の十

十字架によってあがなわれました。神は、必ずあなたを助け、平安に変え、すべてを働かせて益としてくださいます。このことを知って、安心して神の約束を信じ、平安を待ち望みましょう。